

(ご協力いただいたモニター数: 168社、調査時期: 2015年4月14日~21日)

公益財団法人 大阪市都市型産業振興センター 経済調査室
4/28 <http://www.sansokan.jp/tyousa/> tel:06-6264-9816

《3月の景況判断に関する要点》(図1)

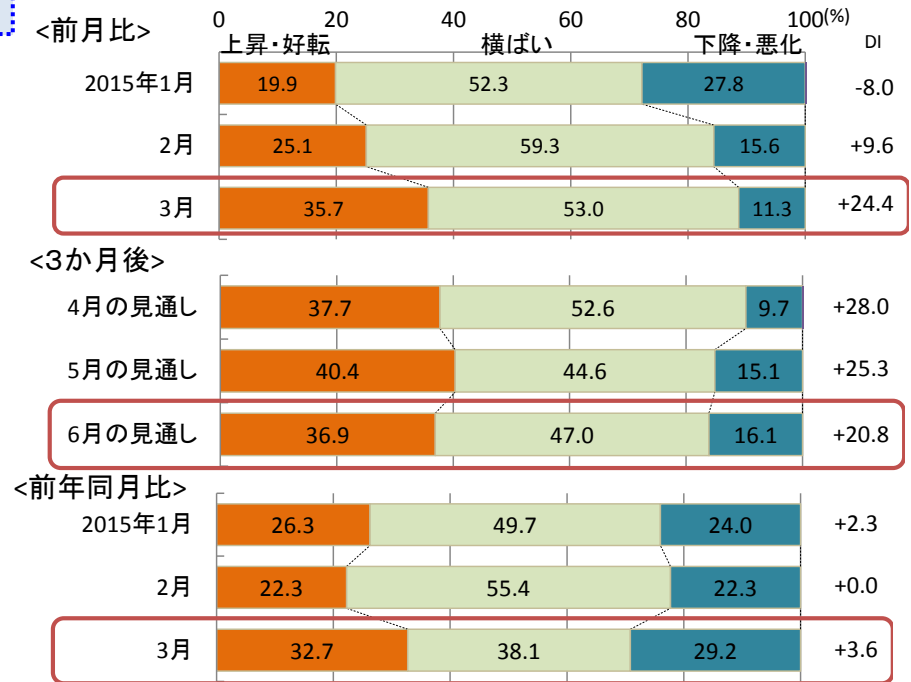
「景気は季節的要因もあいまって、力強く回復」

- ・3月の景況(前月比)をみると、「上昇・好転」とする回答の割合は10.6ポイント増加、「下降・悪化」は4.3ポイント減少し、DIは14.8ポイント上昇し+24.4。業種別DIは、製造業では12.8ポイント上昇し+22.6、非製造業では16.1ポイント上昇し+25.5。
- ・[上昇・好転]した主な理由は、「時期的、季節的な要因」が5割台半ばで最多、次いで「内需が増大したから」が4割弱(図なし)。「下降・悪化」した理由は、「内需が減少したから」が3割強、「時期的・季節的な要因で」と「他社との競争の状況で」がともに2割台半ば(図なし)。
- ・3ヵ月後(6月)の見通しは、今月(3月)と比べて6月は「上昇・好転」が減少し、「下降・悪化」が僅かに増えるも、DIは+20.8の高水準。20を超えるDIが4ヵ月連続し順調。
- ・3月の前年同月比は、「上昇・好転」の増加幅が「下降・悪化」の増加を上回り、DIは2月よりも3.6ポイント上昇し+3.6となった。前年は駆け込み需要期であったことを勘案すると、景況は高水準と判断される。

《直近の年度決算における営業利益(業種別)》(図2)

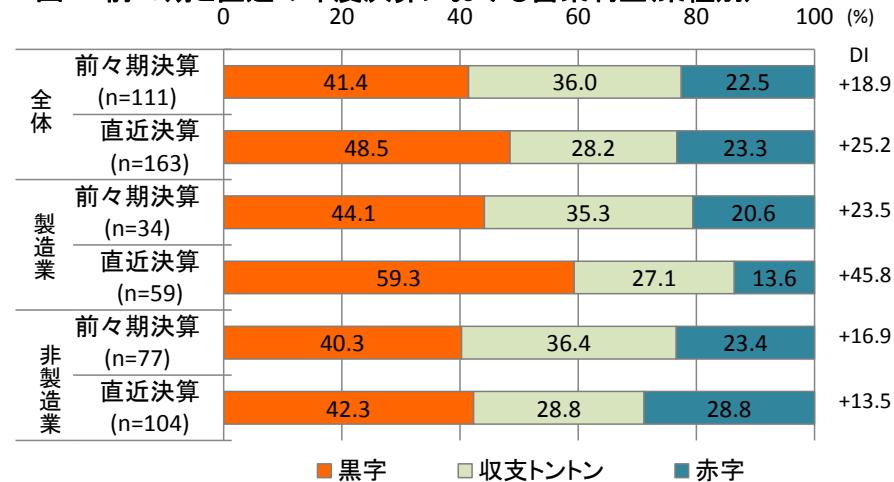
直近決算の営業利益は、全体では、「黒字」企業が半数近くを占め、「横ばい」が3割弱、「赤字」が2割台半ば。前々期の決算(2年前に調査)との比較では、「黒字」が増加するとともに「赤字」も僅かながら増加した。業種別では、製造業では「黒字」企業が6割に増加、「横ばい」、「赤字」はともに減少し、順調に改善。他方、非製造業では、「黒字」は僅かに増加して4割強、「赤字」も増加して3割弱となり、2極化の方向に変化し、DIは3.4ポイント減少。

図1 景況判断



* DI(Diffusion Index)「上昇・好転」の割合から、「下降・悪化」の割合を引いた数字。景気動向を表す指標のひとつ。

図2 前々期と直近の年度決算における営業利益(業種別)



* ()内は回答数。前々期決算は2013年4月調査の結果。直近決算は今回の調査(2015年4月)時点での各企業の直近決算

《直近の年度決算における営業利益(従業者規模別)》(図3)

・従業者規模別にみると、収支改善の差が顕著となった。“5人以下”の企業では、「黒字」の割合は前々期よりも僅かに増加して2割台半ば、「赤字」は4割弱で横ばいとなり、DIの改善は小幅。“6～50人”では、「黒字」が増加して5割台半ばとなるも、「赤字」も増加して2割となり、DIでは横ばい。“51人以上”では、改善が見られ、8割以上が「黒字」となり、「赤字」は僅かに過ぎず、DIは24ポイントも上昇。

《直近決算の売上高と今年度の見込み(業種別)》(図4)

・製造業では、直近決算の売上高は「横ばい」とする割合が最も多く4割台半ば、「増加」の4割弱、「減少」の1割台半ばが続き、回復している。また、今年度見込みでは、「増加」が僅かに減少して3割台半ばとなり、「減少」が2割台半ばに増加するも、依然として「増加」が「減少」を上回り、緩やかながら回復基調が続く見通し。

・非製造業でも、直近決算の売上高が「増加」した割合は、製造業と同様の4割弱で、なかでも「20%以上の増加」が1割以上を占め、製造業よりも好調。他方、「減少」は1割半ばで、回復傾向。今年度見込みでは、「増加」が5割近くまで上昇する見通しで、売上高見込みについては、製造業を上回る回復傾向が続くと見込まれる。

・2013年10月に実施した調査では、2007年と比較した売上高(見込み)は、業種を問わず、「減少」が「増加」を大きく上回っていたが、今年度は改善に転じている。

図3 前々期と直近の年度決算における営業利益(従業者規模別)

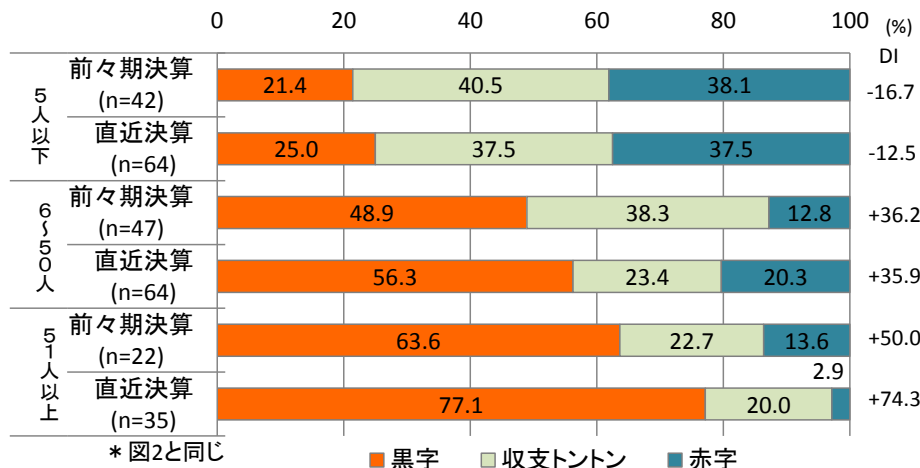
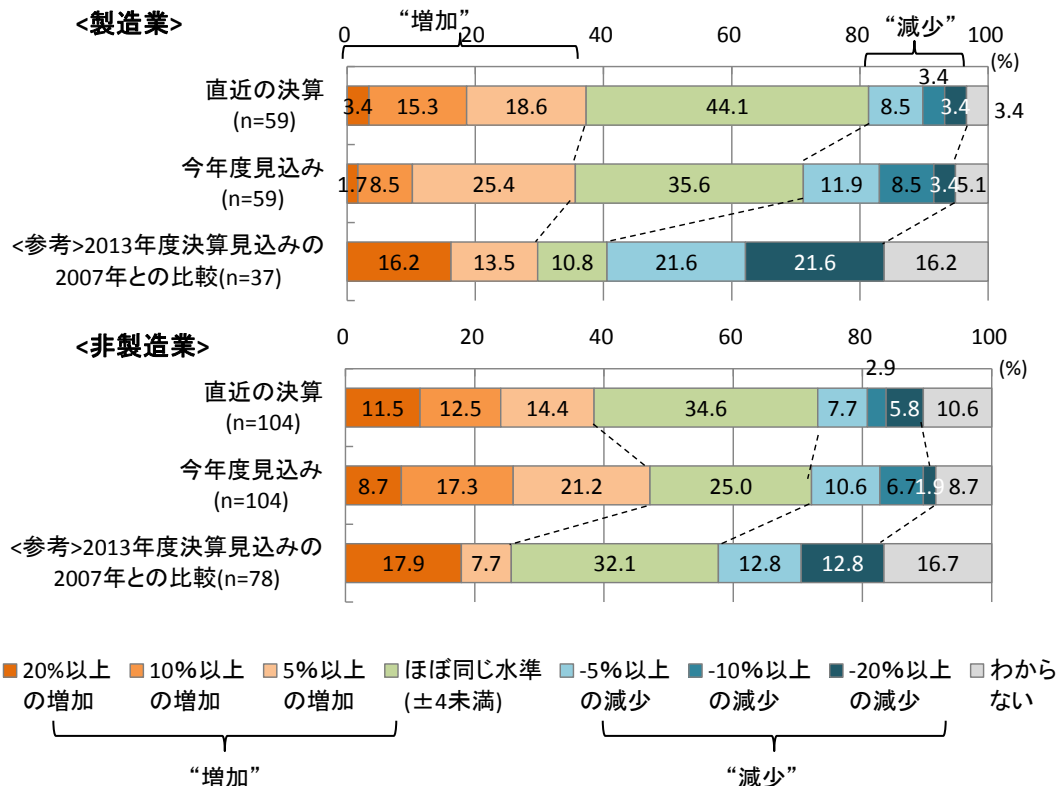


図4 直近決算の売上高(対前年度)と今年度の見込み



*()内は回答数。“2013年度決算見込みの2007年との比較”は2013年10月調査の結果。

《2014年4月以降の「仕入価格」と「販売単価」》(図5)

- 「仕入価格」を業種別にみると、製造業では6割台半ばが“上昇”と回答したのに対し、非製造業では4割となった。原材料費の上昇は、製造業でより深刻。
- 「販売単価」が“上昇”したとする割合は、製造業では1割強、非製造業で1割台半ばとなり、両業種ともに“ほぼ横ばい”が8割強を占めた。業種を問わず、「仕入価格」の上昇に「販売単価」の上昇が伴わず、価格転嫁の進展がみられない状況。

《2015年4月以降の海外ビジネス(2014年4月からの1年間との比較)》(図6)

- 2015年4月以降の輸出関連の売上では、製造業で2割弱、非製造業でも1割弱が「増加」を見込み、「減少」は両業種ともに数パーセントとなった。輸入についても、製造業では2割が「増加」と回答した。非製造業では「増加」、「減少」とともに数パーセントで大きな変化はない。総じて、輸出入に関しては、景況感の回復基調のもとで、「増加」とする割合が「減少」を上回る見通し。
- 為替差益については、製造業で「減少」が上回り、非製造業で「増加」が上回ったが、いずれも1割未満。
- “外国人観光客への売上”については、関係する企業の割合は全体の2割ほどと少数だが、特に非製造業では関係する2割のうち、半数近い1割が「増加」と回答し、好調に推移することが見通せる。

図5 2014年4月以降の「仕入価格」と「販売単価」(業種別)

※2013年4月以降の1年間と比較、消費税分を除く

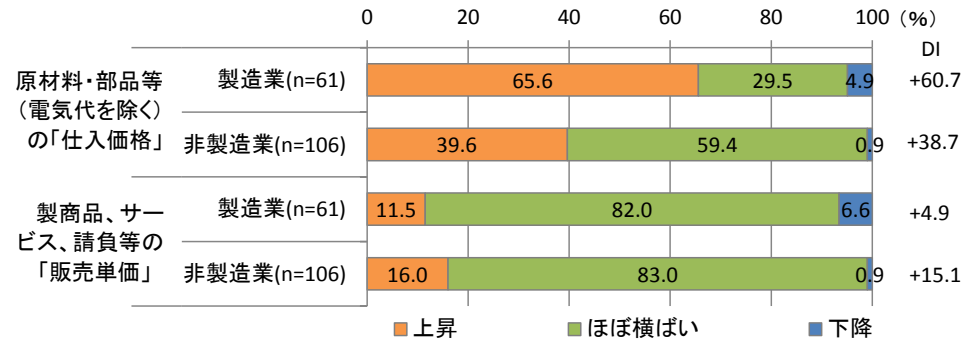
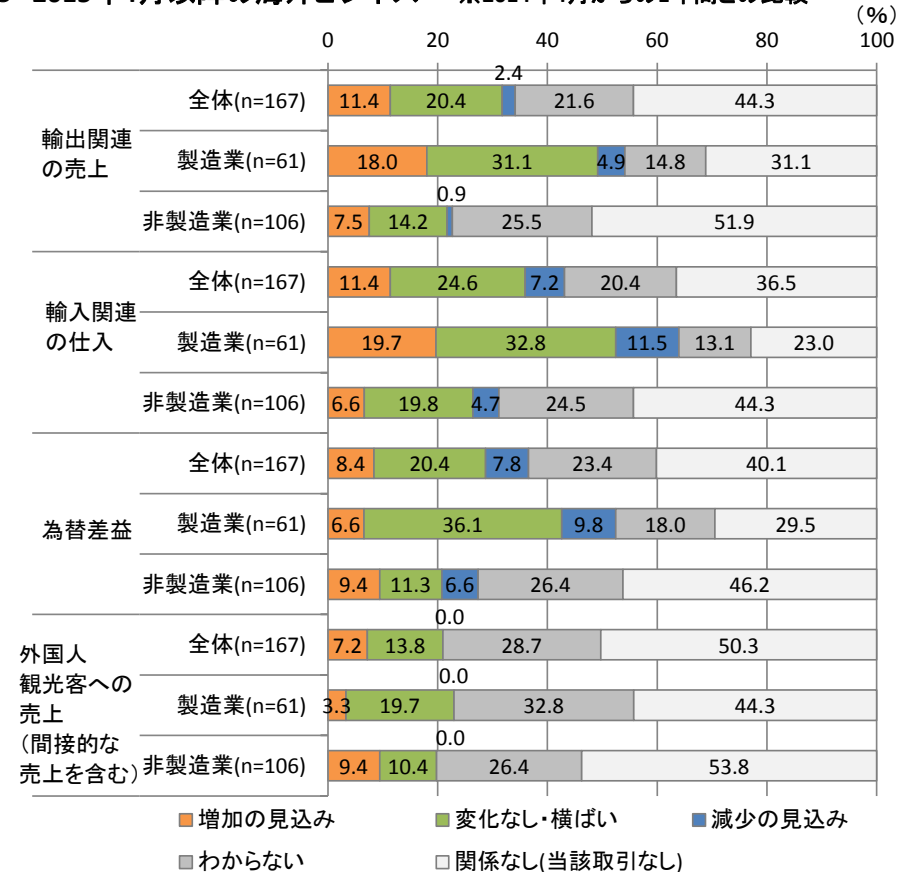


図6 2015年4月以降の海外ビジネス ※2014年4月からの1年間との比較



《従業者数の過不足の状況》(図7)

・全体では、「過不足なし」が約半数を占めて最多、次いで「不足」が3割台半ば、「過剰」が1割台半ばとなった。業種別では、製造業では「不足」が4割以上を占めて「過不足なし」を上回り、非製造業よりも不足感が強くなっている。

《従業者一人あたり平均賃金・手当での上昇・下降(前年同期との比較)》(図8)

- ・正規社員の基本給の上昇基調は、特に製造業で強まっている。製造業の2013年10-12月期は上昇が2割弱に過ぎなかったが、15年1-3月期には3割台半ば、4-6月期見込みでは4割台半ばとなっている。非製造業でも上昇傾向が見られ、13年の1割台半ばが、15年には2割台半ばとなった。
- ・非正規社員でも、正規社員ほど多くはないものの、「上昇」が増加しており、2015年1-3月期では、製造業で2割弱、非製造業で1割台半ばが「上昇」と回答した。
- ・他方、月平均時間外手当は、製造業では、2013年には「上昇」が1割台半ばで「下降」を上回っていたが、15年1-3月期には「下降」が「上昇」を僅かに上回った。ただし、4-6月期にはほぼ同じ割合の見込み。非製造業の15年4-6月期は、製造業よりもやや少ないものの、「上昇」が1割を占め、「下降」を僅かに上回っており、残業が増えそうな見通しである。
- ・2015年の夏季賞与は、両業種の傾向は類似しており、「上昇」が「下降」を上回る見込み。ただし、1割台半ばが「支給なし」。

図7 従業者数の過不足の状況

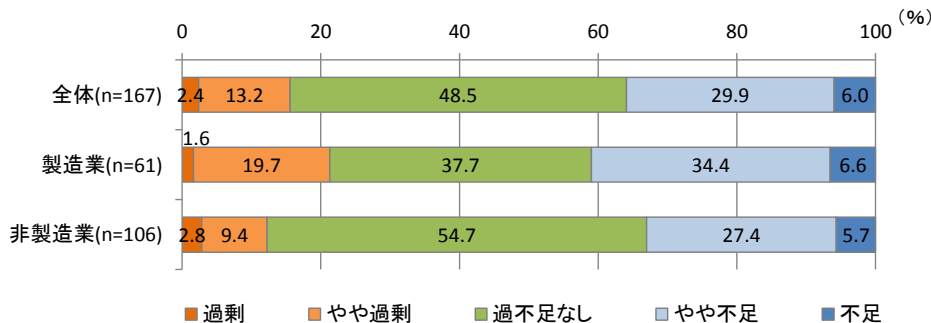
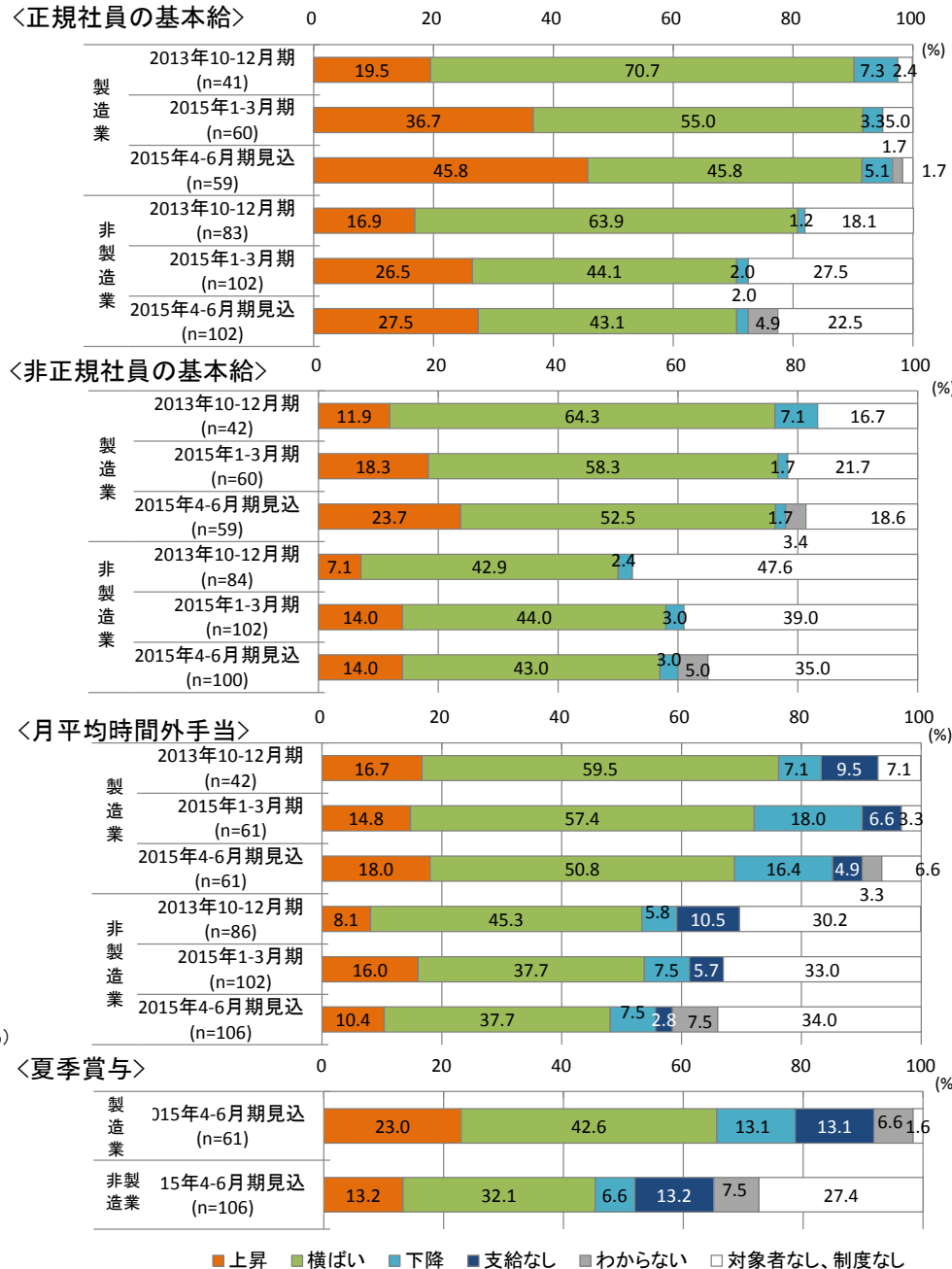


図8 従業者一人あたり平均賃金・手当での上昇・下降 ※前年同期との比較



* “2013年10-12月期”は2014年1月調査の結果

図9 従業者数の過不足と、賃金・手当の上昇・下降のクロス集計

《従業者数の過不足と、賃金・手当の増減のクロス集計》(図9)

・図7の「従業者数の過不足の状況」の“過剰”、“過不足なし”、“不足”別に、図8の「従業者一人あたり平均賃金・手当での上昇・下降」をみたのが図9で、総じて、従業者数が“不足”している企業で、賃金・手当が「上昇」している割合が多い。

・図9-1-1より、従業者数が“不足”と回答した企業では、2015年1-3月期に関して、半数近くが正規社員の基本給を上昇させている。他方、非正規社員については、図9-1-2より、従業者数の過不足による差はほとんどみられない。また、図9-1-3より、従業者数が“過剰”な企業では、“下降”の割合が高く、時間外手当を減らしていることがわかる。

・図9-2-1より、15年4-6月期の正規社員の基本給の見込みは、従業者数が“不足”している企業の6割が「上昇」と回答しており、図9-1-1よりも多く、2年続けて上昇の動き。

・図9-2-4より、夏季賞与については、従業者数が“過剰”な企業では、「上昇」が数パーセントに対して、「下降」が2割、「支給なし」が2割台半ばを占めるが、“不足”している企業では、「上昇」が4割、「下降」が1割未満、「支給なし」が1割強で、従業者数の過不足によって、顕著な差がみられる。

◇2015年1-3月期実績

図9-1-1 正規社員の基本給

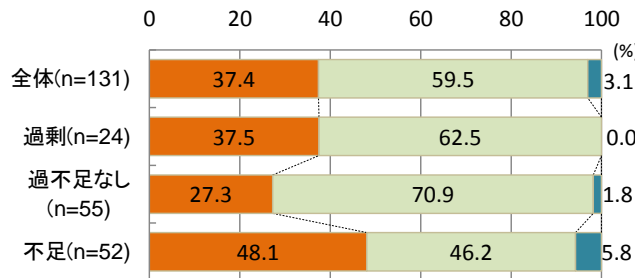


図9-1-2 非正規社員の基本給

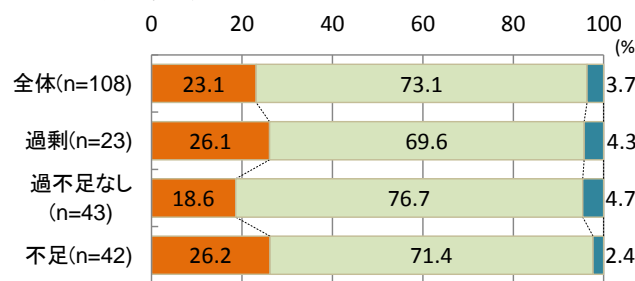
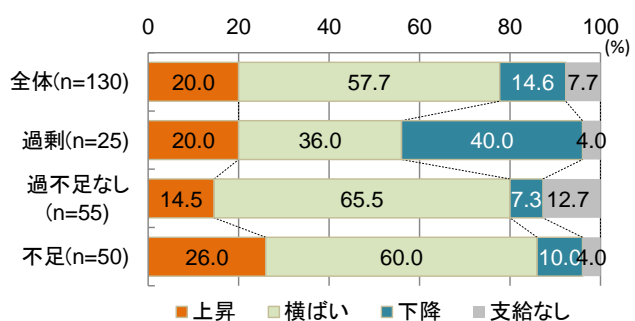


図9-1-3 月平均時間外手当



*図8の「わからない」、「対象者なし、制度なし」とする回答を除いた集計

◇2015年4-6月期見込み

図9-2-1 正規社員の基本給(見込み)

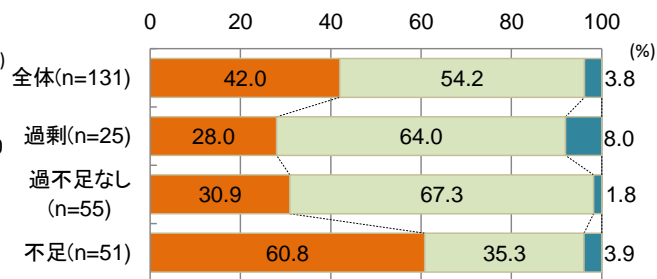


図9-2-2 非正規社員の基本給(見込み)

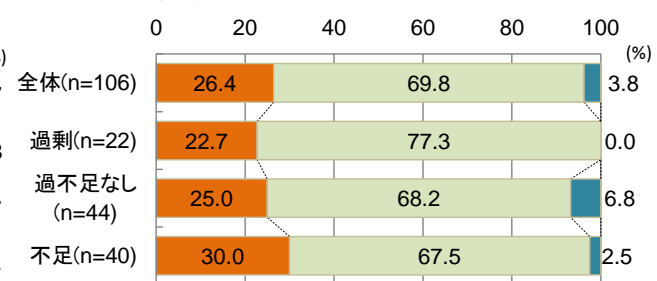


図9-2-3 平均時間外手当(見込み)

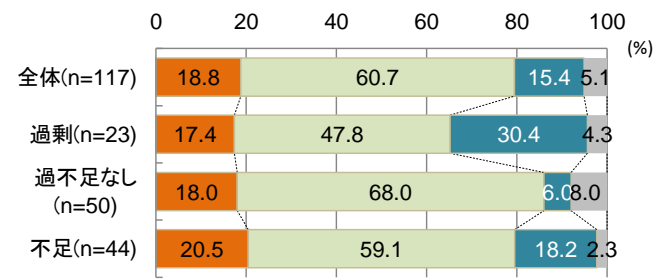


図9-2-4 夏季賞与(見込み)

